



【実施報告】2024年10月8・23日 住友商事グループ
オンライン参加型セミナー&ワークショップ

「教育支援プロボノワークショップ:環境」

浪崎直子・伊東久枝（海の環境教育 NPO bridge）



概要

住友商事グループで実施されている「教育支援プロボノ」に海の環境教育実施団体として参加させていただき、社員の皆様に海洋環境の現状、団体の取り組みを紹介するとともに、団体の課題解決に向けた多様なアドバイスをいただきました。

この住友商事グループの取り組みは、グループ創立100周年（2019年）を機に立ち上げられた『100SEED（ワンハンドレッドシード）』の一環として行われているもので、SDGsの目標4『Quality Education（質の高い教育をみんなに）』を共通テーマに、グループ社員のみなさまが、「自ら対話し、積極的に参加することで、それぞれの地域社会における教育課題の解決に取り組む」社会貢献活動です。

今回は、オンラインで約1時間「海洋環境の実態とbridgeの活動紹介」をさせていただき、後日約2時間30分の対面ワークショップで「中高生向けに実施している室内プログラム」を実際に体験してもらいました。その上で運営基盤強化のための企業連携の可能性について、多様なバックグラウンドをお持ちの住友商事グループ社員のみなさまから、企業人としての経験を基に多くのご意見をいただきました。通常のNPO活動では得られない、新鮮な視点に学ぶことの多いプログラムでした。

- ◆ テーマ：環境教育 NPO の活動の広がり と 運営強化を図る、企業連携の可能性
- ◆ 企業のプログラム実施目的：教育にまつわる社会課題と、その解決に向けた取り組みに触れることにより、社員の社会課題解決に取り組む意識の醸成を図る
- ◆ bridge の参加目標：
 - 1) NPO 運営の現状を伝え、活動の広がり と 基盤強化に対するアドバイスを 得る
 - 2) 企業連携の可能性について企業人視点の提案を 得る
 - 3) リアルな海洋環境の現状を伝え、海洋環境問題と都市生活者の関係をより身近に感じてもらう
- ◆ 体験者：オンライン参加型セミナー 30 名 / 対面ワークショップ 10 名
- ◆ 実施場所：オンライン / 住友商事本社会議室
- ◆ 実施時間：2024 年 10 月 8 日 12:00~13:00 / 10 月 23 日 12:30~15:00
- ◆ 使用教材：1) 海洋学習教材 LAB to CLASS <https://lab2c.net>
 《餌の餌の餌は何？～海の世界連鎖 北の海 / 磯・外洋 / サンゴ礁》
 《実物大のイルカをつくろう！》実物大イルカ模型
- 2) 動画『私たちの暮らしと海』 提供：若築建設株式会社
 - ① 森と海のつながり
 - ② 海洋プラスチックごみはどこから来たの？<https://www.youtube.com/channel/UCYZuhZxsMQprLQLnSX19M1>
- ◆ 主催：住友商事株式会社サステナビリティ推進部 100SEED 事務局
- ◆ 受託元：認定 NPO 法人サービスグラント <https://www.servicegrant.or.jp>
- ◆ 協力：若築建設株式会社 / 御蔵島観光協会

◎活動の様子

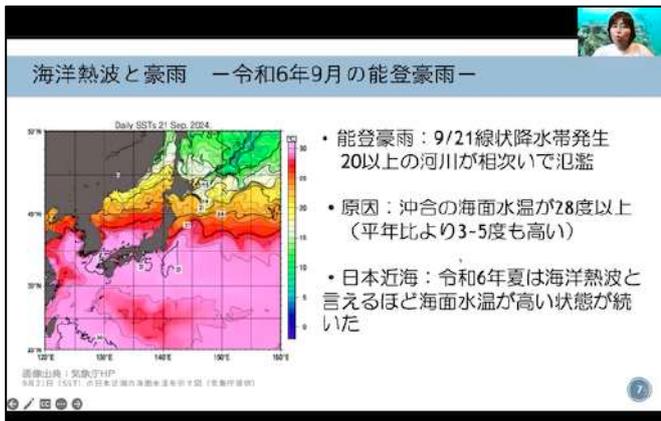
【オンライン参加型セミナー】



▲bridge の活動紹介

2 日に分かれて行われた「教育支援プロボノ」の 1 回目は、ランチタイムを利用してのオンラインセミナー。お忙しいなかグループ企業も含め 30 名もの住友商事グループ社員のみなさまにご参加いただきました。

まずは bridge の理念と活動内容、そして現在私たちが捉えている「海洋環境の実情」を写真とデータを基にご説明いたしました。



▲環境変化の「最前線は“海”」といわれる現状を共有

【ワークショップ】



▲LAB to CLASS 教材『餌の餌の餌は何?～海食物連鎖』



▲映像『イルカの棲む島 御蔵島のイルカたち～野生イルカの世界』



▲動画『私たちの暮らしと海』提供: 若築建設株式会社

その上で、bridge が抱えている運営上の課題をお伝えし、グループに分かれて「企業人視点」での解決に向けたアドバイスを考え、アンケート回答形式で提出いただきました。

そこには、私たちには思いもよらなかった連携候補の企業分野や、ご自身が関わってきた事業での連携案など、予想を遥かに超える多様なアドバイスがあり、今後の活動に大きな自信と可能性を感じることができました。

2週間後に行われた対面のワークショップには、地理的な都合や多忙な業務を押しして10名の住友商事グループ社員のみなさまがご参加くださいました。

企業連携案を考えていただくにあたり、まずは bridge のプログラムを知っていただくなくては…と考え、室内プログラムを実施。

◎中高生むけ室内プログラム体験

アクティビティは、海食物連鎖と日本の海の生物多様性を伝える LAB to CLASS 教材『餌の餌の餌は何?』。そして、自らが暮らす首都圏とさほど遠くない海に、人間とは異なる社会を築いて暮らす生物がいることを伝え「地球は人間だけのものではない」という意識形成を図る『実物大のイルカをつくろう!』のショートバージョン。最後は「森と海、そして私たちの生活とのつながり」を伝える動画『私たちの暮らしと海』を視聴していただきました。

『餌の餌の餌は何?』では動物プランクトンと一緒に赤や黄色の不思議なものが散りばめられたカードをどこに入たらいいか、本気で悩む姿も…。それがマイクロプラスチックだと知ると「なるほど〜。こうやって取り込まれるんだ」と海洋プラスチックによる生物被害の実情を少し実感していただけたように感じました。

その後、グループに分かれて、bridge 課題解決のディスカッション。多様な立場、経験の長短を超えて、それぞれの社員の方が持つスキルや情報に「海洋教育に対する思い」をのせて、bridge の活動をまるで自分たちの事業のように真剣に考え、議論を交わしてくださる姿。そのアイデアの質の高さもさることながら、参加者みなさまの姿に、企業連携の可能性を改めて強く感じる事ができた1日でした。

◎企業連携の可能性（海の世界教育 NPO bridge /伊東久枝）

企業と NPO の連携というと、協賛という形での資金援助を思い浮かべがちですが、企業の社会貢献活動が多様化している現在、さまざまな形での協働の可能性があると今回のプログラムで知ることができました。そして、環境教育 NPO の持つ情報やスキルが、企業内においても活用される可能性を持っていることを実感しました。

対面ワークショップは海好きな方の参加も多く、アクティビティ体験では「これは〇〇だよ」など具体的な生物の名前も飛び出し、とても和やかな雰囲気でした。今後は、今回のように「NPO、企業」という垣根を超え、個々人の思いを繋ぎ、持続可能な社会づくりのため多様な協働の形を模索していきたいと思えます。

企業としてこのような取り組みを行っている住友商事グループに感謝をするとともに、NPO と企業をつなぐ取り組みを長年続けていらっしゃる認定 NPO 法人サービスグラントの活動に、心から感謝をいたします。